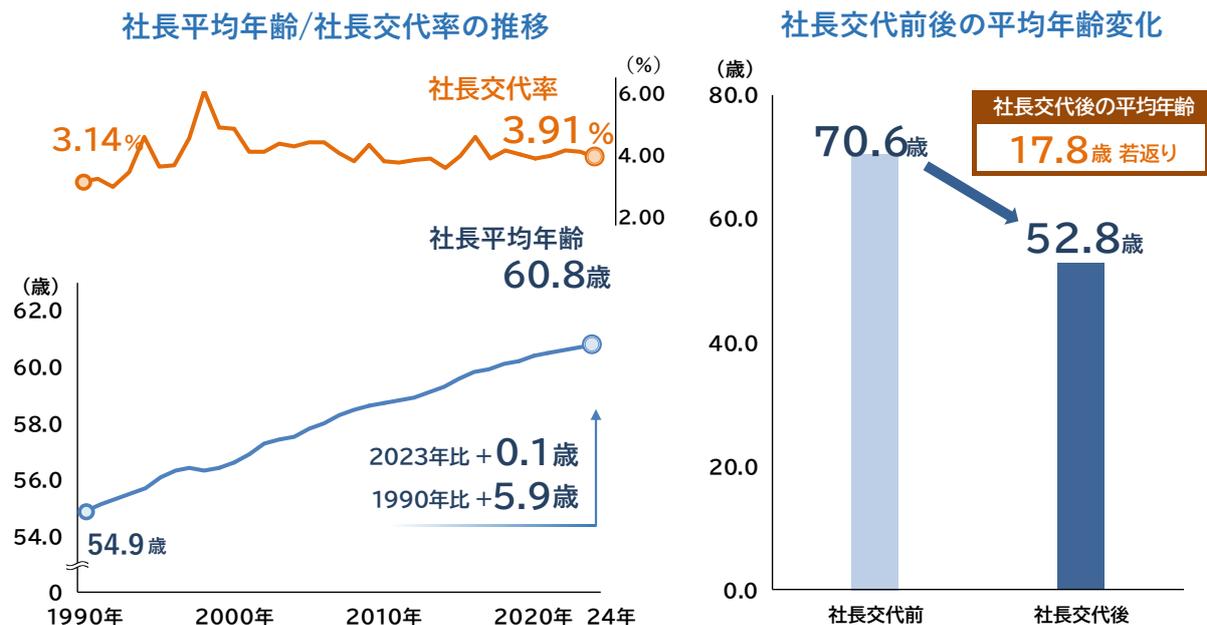


富山県「社長年齢」分析調査（2024年）

社長の平均年齢は 60.8 歳 過去最高を更新

～ 社長が交代する際の平均年齢は 70.6 歳といよいよ 70 歳台に～

社長の平均年齢は、2024年時点で60.8歳だった。社長の交代率が3%台で低迷するなかで、26年連続で過去最高を更新した。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」が到来しており、「経営者の病気・死亡」による倒産も増加している。円滑な事業承継に向けて、早期に準備を進める必要性が一層高まっている。



調査結果（要旨）

- 2024年時点の社長の平均年齢は60.8歳。26年連続の上昇で過去最高を更新
社長が交代した割合は3.91%と前年から0.17pt低下
社長が交代する際の平均年齢は70.6歳といよいよ70歳台に
- 「50歳以上」の社長は8割を上回り、5年間で3.4pt上昇、「40歳未満」の若手経営者は2.5%
- 都道府県別トップは秋田県と岩手県の62.6歳、最も低かったのは三重県の59.6歳、富山県は前年24位→25位に（石川県40位、福井県28位）

■本調査では、企業概要ファイル「COSMOS2」（約148万社収録）から2024年12月時点における企業の社長データ（個人、非営利、公益法人等除く）を抽出し、集計・分析した（うち富山県9,618社）

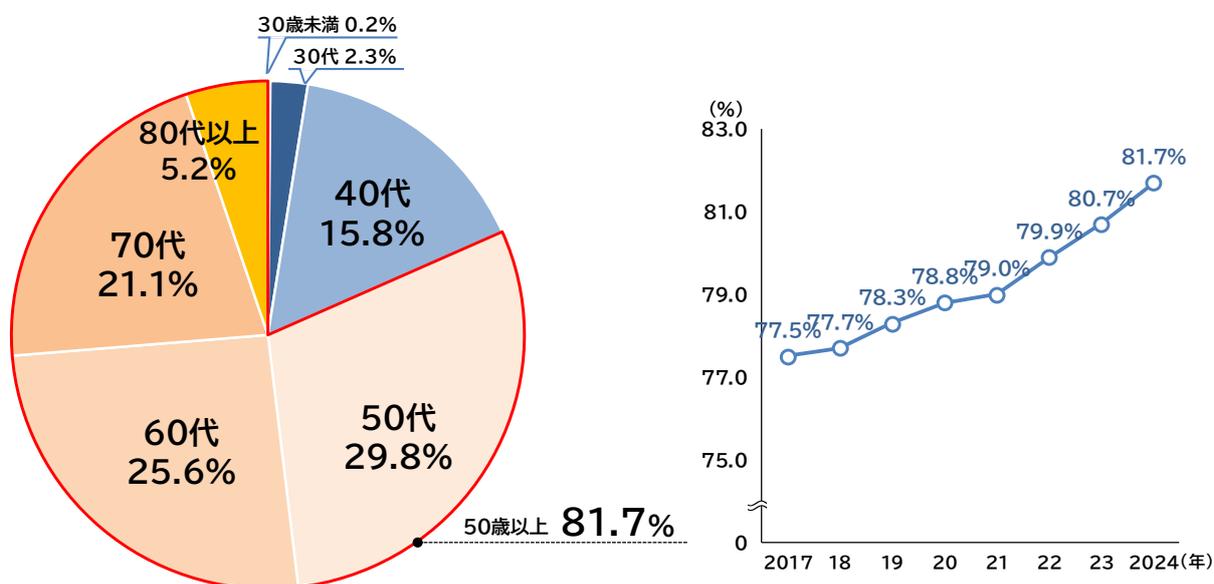
止まらぬ社長の高齢化、社長が交代する際の平均年齢は70.6歳といよいよ70歳台に

富山県では1998年に平均年齢が56.3歳となり前年比▲0.1歳若返ったことがあったが、同年の社長交代率は6.08%と突出した値であったことが要因とみられる。その後1999年以降は毎年上昇を続け、2024年は前年比0.1歳上昇の60.8歳となった。一方で、2024年における前年からの社長交代率は3.91%と前年比0.17pt低下した。前年こそ全国で4%超となった6都県（岩手、東京、富山、島根、高知、沖縄）に名前を連ね、ほか都道府県に比べると社長の世代交代に関しては活発な様子が窺えたが、2024年はその動きが鈍化する結果となった。

また、社長が交代する際の年齢は平均で70.6歳となり、前回調査（69.7歳）からさらに上昇し、いよいよ70歳台での交代が現実となった。高齢ながら社長として経営を続けることにはリスクが伴うなかで、70歳で後継者にバトンタッチをしている結果となったが、一方で社長交代後に就任する新社長の平均年齢は52.8歳（前年53.9歳）となり、17.8歳（前年15.8歳）の若返りがみられた。

<年代別構成比> 「50歳以上」の社長は年々上昇し81.7%に

2024年時点における社長の年代別構成比をみると、「50歳以上」が81.7%を占めた。2024年はいわゆる「団塊ジュニア」世代の多くが50歳を超える時期であり、2年連続で8割を上回るなど上昇が続いた。また、「60歳以上」で区分しても51.9%と半数を超えている。加えて、「30歳未満」は0.2%、「30代」は2.3%にとどまり、30代以下の社長は全社長の2.5%に過ぎない。近年はスタートアップなど新興企業を中心に若手経営者に注目が集まっているものの、経営者の高齢化が進行しているのが実態である。



<業種別> 「不動産」が64.0歳と高水準、「建設業」が59.2歳と最も低い結果に

社長平均年齢を業種別で見ると、「不動産」が64.0歳でトップとなり、続いて「運輸・通信」が62.4歳と高水準だった。他方、「建設」は59.2歳で最も低い結果となった。経験を元にした独立のしやすさが要因と考えられる。

【業種別】社長の平均年齢(年推移)

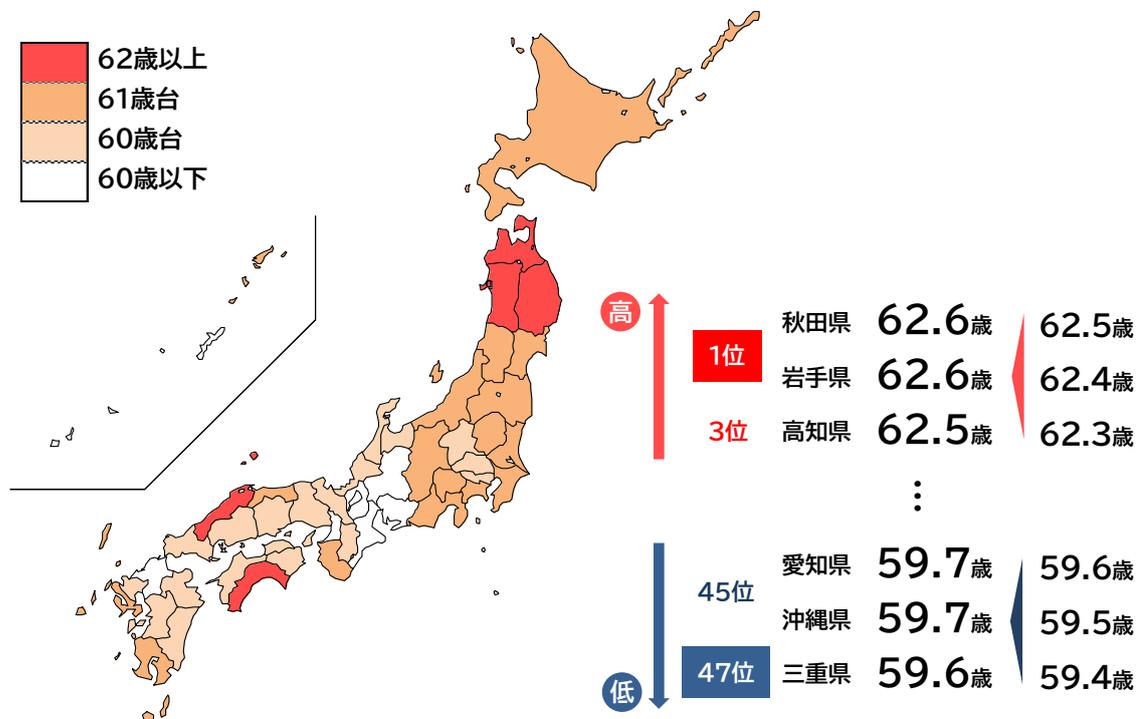
	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2024	対95年比
全体	56.1	56.6	57.8	58.7	59.6	60.4	60.8	+4.7
建設	55.1	55.8	56.9	58.0	58.7	59.0	59.2	+4.1
製造	57.0	57.5	58.5	59.5	60.9	61.5	61.3	+4.3
卸売	56.8	57.2	58.5	59.8	60.7	61.4	61.7	+4.9
小売	55.0	55.7	57.1	58.2	58.8	59.7	60.9	+5.9
運輸・通信	56.5	57.1	58.6	59.1	60.3	61.6	62.4	+5.9
サービス	54.9	56.1	57.4	57.6	58.3	60.3	60.7	+5.8
不動産	57.8	58.8	60.1	61.6	63.3	63.7	64.0	+6.2
その他	58.5	58.5	59.1	58.6	57.8	59.3	60.1	+1.6

<都道府県別> 都道府県別、秋田県と岩手県が62.6歳でトップ

都道府県別で見ると、秋田県（2023年比+0.1歳）と岩手県（同+0.2歳）が62.6歳で最も高く、岩手県は5年ぶりのトップとなった。次いで、高知県（62.5歳、同+0.2歳）、青森県（62.3歳、同+0.1歳）が続いた。とりわけ、東北地方の6県がすべて全国平均（60.7歳）を上回り、社長の高齢化が顕著である。

一方、最も低かったのは三重県の59.6歳（同+0.2歳）で、8年連続で最も低かった。その他、愛知県や沖縄県（いずれも59.7歳）など、60歳を下回ったのは7府県だった。総じて、都道府県別の社長平均年齢は「東高西低」の傾向が強い。

なお、47都道府県のなかで社長平均年齢が前年から低下したのは、熊本県（60.1歳、同-0.1歳）と大分県（60.3歳、同-0.1歳）の2県のみだった。また、同横ばいは3県だった。

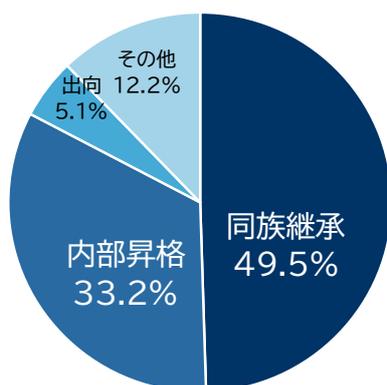


交代した社長の就任経緯、同族継承と内部昇格が多くを占める

交代した社長の就任経緯を分析すると、「同族継承」が49.5%で最も高く、「内部昇格」が33.2%で続いた。「出向」は5.1%だった。

就任経緯別に社長交代前後の平均年齢をみると、「同族継承」が交代前の平均年齢では73.3歳で最も高く、「出向」が58.5歳で最も低かった。交代後では「その他」が63.4歳で最も高く、「同族継承」が48.9歳で最も低かった。交代前と交代後の年齢差でみると、「同族継承」が24.4歳で最も開きが大きく、若返りが大幅に進んでいる。

【就任経緯別】交代前後の社長年齢



就任経緯	平均年齢		年齢差
	交代前	交代後	
同族継承	73.3	48.9	24.4
内部昇格	69.3	56.0	13.3
出向	58.5	61.8	-3.3
その他	70.0	63.4	6.6
全体	70.6	52.8	17.8

※「全体」は2024年の社長交代企業を指す

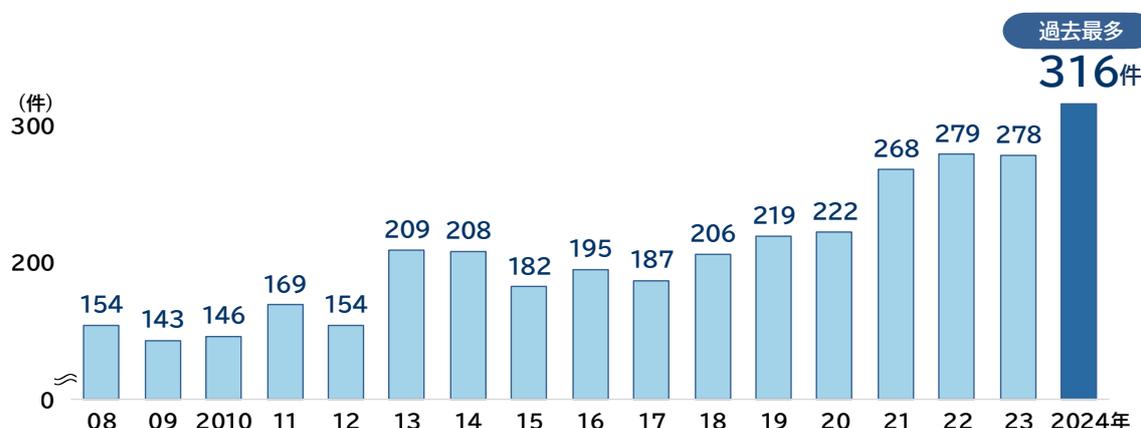
高まる「社長の高齢リスク」、事業承継への早期着手が焦点

日本における社長の平均年齢は 60.7 歳となり、過去最高を更新した。社長が「50 歳以上」である企業の割合は引き続き 8 割を超えるなど、「社長の高齢化」が一層深刻になっている。業種や地域によっては、さらに高齢化が進行している実態も明らかとなった。直近では社長交代率が低水準にとどまるなかで、今後も社長の平均年齢は上昇し続けるだろう。

2019 年、中小企業庁は「2025 年までに 70 歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約 245 万人となり、うち約半数の 127 万人が後継者未定」との試算を発表しているが、鈍化する社長交代率を背景に平均年齢の上昇に歯止めがかからない。今後は事業承継が進まずに事業継続を断念せざるを得ないケースがさらに増加する可能性がある。

こうした結果の一つとして、「経営者の病気・死亡」による倒産が増加している。2024 年には 316 件判明し、過去最多の件数を記録した。社長が高齢になれば「不測の事態」が生じる可能性は高まり、企業経営にも重大な影響を及ぼしかねない。社長の高齢リスクが高まるなか、十分な期間を設けた事業承継の実施に向けた周到な準備が求められる。

(参考)「経営者の社長・病気」を主因とする倒産の件数(全国数値)



株式会社帝国データバンク 富山支店 支店長 西浦 康

【問い合わせ先】 076-432-8110

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。